

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	林田 枝実
主な担当科目	ピアノアンサンブルⅡ②,ピアノ演奏研究②,ピアノ指導法研究,音楽教育メソッド実践Ⅱ,実技個人レッスン[ピアノⅠ①,ピアノ②,ピアノ④,ピアノ実技Ⅰ①,ピアノ実技Ⅰ②,ピアノ実技Ⅰ③.ピアノ実技Ⅰ④,音楽芸術表現実技(ピアノ)①②,博士特別表現研究②]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	2022年度はwithコロナでの授業展開となり、新入生もコロナ禍を生き抜いてきた馬力のある者が増えてきた。しかし、コロナ以前とは音楽の発信・受容方法には大きな変化が見られ、個々の考え・スタイルに照準を合わせて指導する必要が一層肝要となってくる。音楽界の変容を学生と共にキャッチアップし、護るべき伝統をいかに学生に理解しやすい形で伝えていくかを念頭に臨みたい。
2022年の教育に関する自己評価	コロナ前同様にとまではいかなかったが学園祭もオンラインで再開、学内の演奏会活動も徐々にスタートした。このことから学生のモチベーションにも変化が見られたが、2年次までの学生にとっては、コロナ前の活動範囲を理解できずに苦しんだことも多々あったと思われる。演奏活動、学生活動、学修面という多岐に亘る音大生は本当に多忙である。昼夜問わずにサポートする場面の多い一年であったが、一人一人が、進む先に見える光を見出す手助けに注力した一年であった。
2022年のFD活動に関する自己評価	2022年度のFD年間テーマ ①「多様な背景を持つ学生が持続的かつ安心して学べる学修環境とは」 ②「コロナ禍を経た教育方法・教育効果の検証」 ③「新しい時代の大学人に求められることとは」に沿った全体会、各プレゼンテーションの内容が大変充実して、現状の問題のみならず、未来に向けての音楽大学の立ち位置等を考え直す機会を提供されたと認識している。グループディスカッションも大きな発見があった。ポリティカル・コレクティブネス、コンプライアンス。 また所属する学内組織主任指導のもと、鍵盤楽器学内組織としても多角的に取り組んだ。特に、今年度もコロナ禍に見舞われ、新入生、留学生には様々な問題が生じた。これらをFDテーマと照合し、対応にあたっている。
授業改善のために取り入れた研修内容	withコロナの時代にあって、学生のメンタリティ、そして動向に大きな変化を感じた一年であった。学生生活委員会の三ツ堀委員長のご指導のもと、学生のさまざまな事象を共有させて頂いた。コロナ禍を生き抜いてきた世代を受容する場として、「表現者」を育てること、「主体性のある個人」を育成することをバランスよく両立することを念頭に、授業でも研修内容を念頭に展開した。 本年度より担当した「ピアノアンサンブルⅡ②」では半期ながらも学生の実態を直視することができ、コミュニケーション能力も含め、年間テーマの②③を検証している。

科目名－クラス名

ピアノアンサンブルⅡ②

曜日時限

火 1時限

担当教員

林田 枝実

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				0	0	0	50	50	100

教育到達目標と概要

ピアニストは一人で演奏する場面が多いが、アンサンブル(2人以上で演奏)では様々な角度から楽曲にアプローチし、互いに協調することで幅広い音楽性を養い、自分自身の音楽を立体的に形成することができる。

「ピアノアンサンブルⅡ①」で学修した内容からさらに一步前進し、作者のIDEE(思考・意図)を理解し表現することで、作品の魅力を聴衆に伝えられるスキルを修得する。前期は中学・高校の教材から入り、歌曲伴奏、後期ではピアノデュオ(連弾、二台ピアノ)、室内楽を取り上げる。室内楽については、共演者を依頼し作曲家ごとに、器楽曲としての研究をする。受講者の人数等により授業内容が多少変更になる場合がある。

学修成果

お互いの音をよく聴き演奏することで、自分の音以外にも耳を傾けることができ、演奏を客観的に聴くことが出来るようになる。またそれぞれが作曲家のメッセージや楽曲の情景に思いを巡らせて討論することで、自己表現力を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション：授業内容、進め方、教材などの説明（浅野）
第2回	日本歌曲 山田耕作「からたちの花」「このみち」 有節歌曲形式と自由形式の作品の比較（浅野）
第3回	日本歌曲 中田喜直「さくらよこちょう」別宮貞夫「さくらよこちょう」 同じ詩・異なる作曲家の作品で、詩の抑揚等捉え方を学び表現する（浅野）
第4回	日本歌曲 木下牧子 「たけとんぼに」 同時代の作曲家の作品から、詩と音楽の関係を感じ取り、表現方法を研究する（浅野）
第5回	イタリア歌曲 ベッリーニ「優雅な月」 簡易なピアノパートにいかにかCantabileの要素の表現を織り込むかを修得する（浅野）
第6回	イタリア歌曲 トスティ「理想の人」 左手に現れる旋律、ベースラインの進行、右手の三連符の運び方を修得する（浅野）
第7回	イタリア歌曲 ドナウディ「あゝ、愛する人の」 作曲家の細かい指示表示を歌の旋律、歌詞との関係も含めて汲み取り、ピアノパートの表現につなげることを修得する（浅野）
第8回	イタリアオペラ ベッリーニ「あゝ、再び見る懐かしい眺め」～『夢遊病の娘』 ベッリーニの特徴でもある3連符の演奏方法を、オペラ作品においてどのように演奏するかを探求する（浅野）
第9回	イタリアオペラ ドニゼッティ「ひそやかな涙」～『愛の妙薬』 オーケストラの作品の中でソロ楽器系の音色・奏法をピアノ演奏に反映させる方法を探求する（浅野）
第10回	古典派オペラ モーツァルト『フィガロの結婚』から「恋とはどんなものかしら」 オーケストラの音をどのようにピアノで表現するか、本来演奏されている楽器を知り、反映する方法を探求する（浅野）
第11回	古典派歌曲 モーツァルト「すみれ」 ストーリーの展開がある歌詞から、ピアノパートの表現の可能性を考え、修得する（浅野）
第12回	ドイツ歌曲 シューマン「献呈」 比較的シンプルな詩の形態から、個々の言葉の意味を感じ取り、その違いをピアノパートに反映する方法を探求する（浅野）
第13回	フランス歌曲 フォーレ 「夢のあとに」 和音のみで進行していく作品での表現方法を探求する（浅野）
第14回	歌手を迎えてのアンサンブル実習(基礎)（浅野）
第15回	歌手を迎えてのアンサンブル実習(発展)・成果発表（浅野）
第16回	オリエンテーション：授業内容、進め方、教材(楽譜の入手)、評価方法などの説明（林田）
第17回	ピアノデュオ作品・二台ピアノ作品のアンサンブルについて(基礎) 基本的な音楽づくり、楽譜の読み方(捉えかた)を学ぶ（林田）
第18回	ピアノデュオ作品・二台ピアノ作品のアンサンブルについて(応用) 音楽的・技術的問題点、それらを解決するための方策を考察する（林田）
第19回	ピアノデュオ作品・二台ピアノ作品のアンサンブル、発表、ディスカッション より魅力的なデュオを完成させるために（林田）

第20回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等）のピアノパート実践（基礎） ～呼吸、フレーズ感、リズム感、テンポ感を考察する（林田）
第21回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等）のピアノパート実践（応用） ～バランス、音色、タッチ、ペダリング、共演楽器の違い等を考察する（林田）
第22回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等） 弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践（林田）
第23回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等） 弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践、共演者を伴うステージづくりについて、ディスカッション（林田）
第24回	F. Schubert 作曲ピアノとヴァイオリンのためのソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のピアノパート実践（基礎） 初期ロマン派の室内楽作品を考察する（林田）
第25回	F. Schubert 作曲 ピアノとヴァイオリンのためのソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のピアノパート実践（応用） 初期ロマン派の室内楽作品の表現に迫る J. Haydn作曲 ピアノトリオ Hob. X V : 25ピアノトリオのピアノパート実践（基礎） ピアノ、ヴァイオリン、チェロの楽器構成、音楽構築を識る（林田）
第26回	弦楽器奏者を迎えて F. Schbert作曲ヴァイオリンソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のアンサンブル実践（基礎） 共演時の楽しみ、喜び、問題点の確認（林田）
第27回	弦楽器奏者を迎えて F. Schbert作曲ヴァイオリンソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のアンサンブル実践、ディスカッション（応用） 音楽的なリーダーシップや、アンサンブルの意義に迫る（林田）
第28回	J. Haydn作曲 ピアノトリオ Hob. X V : 25 ピアノトリオのピアノパート実践（応用） 技術的な問題点を音楽的な観点から解決するには（林田）
第29回	弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践(基礎) J. Haydn作曲 ピアノトリオHob. X V : 25 ピアノトリオの音楽的なステージづくりを体験する（林田）
第30回	弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践(応用)、ディスカッション J. Haydn作曲 ピアノトリオHob. X V : 25 アンサンブルの醍醐味を総括する（林田）

履修上の注意

授業を実践的に活用するために事前の練習・研究を十分に行うこと。
他学生の演奏が授業内でどのように変化するかをよく聴き取り、自分自身の演奏に生かすこと。
授業での講義は受講者全員に共通の内容となるので真摯な態度で臨むこと。
新型コロナウイルスの感染状況による内容の変更・調整が生じることがある。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

様々な形態の音楽を数多く聴くこと。日々の暮らしの中で四季を感じ、豊かな表現力や感性を磨くこと。
課題は事前に30分、授業後に30分の学修を行うこと。
各課題の演奏、小テスト、及び成果発表後の講評によりフィードバックを行う。

教科書・参考書

取り上げる課題については授業を進めながら配付あるいは指定していく。指定された楽譜は各自で用意すること。

科目名-クラス名

ピアノ演奏研究②

曜日時限

火 1時限

担当教員

林田 枝実

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
その他	2~	通年	3	評価割合	0	0	0	50	50	100

教育到達目標と概要

ピアニストは一人で演奏する場面が多いが、アンサンブル(2人以上で演奏)では様々な角度から楽曲にアプローチし、互いに協調することで幅広い音楽性を養い、自分自身の音楽を立体的に形成することができる。

「ピアノ演奏研究①」で学修した内容からさらに一步前進し、

作者のIDEE(思考・意図)を理解し表現することで、作品の魅力を聴衆に伝えられるスキルを修得する。

前期は中学・高校の教材から入り、歌曲伴奏、後期ではピアノデュオ(連弾、二台ピアノ)、室内楽を取り上げる。

室内楽については、共演者を依頼し作

学修成果

お互いの音をよく聴き演奏することで、自分の音以外にも耳を傾けることができ、演奏を客観的に聴くことが出来るようになる。

またそれぞれが作曲家のメッセージや楽曲の情景に思いを巡らせて討論することで、自己表現力を高めることができる。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション：授業内容、進め方、教材などの説明 (浅野)

第2回 日本歌曲 山田耕作「からたちの花」「このみち」
有節歌曲形式と自由形式の作品の比較 (浅野)

第3回 日本歌曲 中田喜直「さくらよこちょう」別宮貞夫「さくらよこちょう」
同じ詩・異なる作曲家の作品で、詩の抑揚等捉え方を学び表現する (浅野)

第4回 日本歌曲 木下牧子 「たけとんぼに」
同時代の作曲家の作品から、詩と音楽の関係を感じ取り、表現方法を研究する (浅野)

第5回 イタリア歌曲 ベッリーニ「優雅な月」
簡易なピアノパートにいかにかCantabileの要素の表現を織り込むかを修得する (浅野)

第6回 イタリア歌曲 トスティ「理想の人」
左手に現れる旋律、ベースラインの進行、右手の三連符の運び方を修得する (浅野)

第7回 イタリア歌曲 ドナウディ「あゝ、愛する人の」
作曲家の細かい指示表示を歌の旋律、歌詞との関係も含めて汲み取り、ピアノパートの表現につなげることを修得する (浅野)

第8回 イタリアオペラ ベッリーニ「あゝ、再び見る懐かしい眺め」～『夢遊病の娘』
ベッリーニの特徴でもある3連符の演奏方法を、オペラ作品においてどのように演奏するかを探求する (浅野)

第9回 イタリアオペラ ドニゼッティ「ひそやかな涙」～『愛の妙薬』
オーケストラの作品の中でソロ楽器系の音色・奏法をピアノ演奏に反映させる方法を探求する (浅野)

第10回 古典派オペラ モーツァルト『フィガロの結婚』から「恋とはどんなものかしら」
オーケストラの音をどのようにピアノで表現するか、本来演奏されている楽器を知り、反映する方法を探求する (浅野)

第11回 古典派歌曲 モーツァルト「すみれ」
ストーリーの展開がある歌詞から、ピアノパートの表現の可能性を考え、修得する (浅野)

第12回 ドイツ歌曲 シューマン「献呈」
比較的シンプルな詩の形態から、個々の言葉の意味を感じ取り、その違いをピアノパートに反映する方法を探求する (浅野)

第13回 フランス歌曲 フォーレ 「夢のあとに」
和音のみで進行していく作品での表現方法を探求する (浅野)

第14回 歌手を迎えてのアンサンブル実習(基礎) (浅野)

第15回 歌手を迎えてのアンサンブル実習(発展)・成果発表 (浅野)

第16回 オリエンテーション：授業内容、進め方、教材(楽譜の入手)、評価方法などの説明 (林田)

第17回 ピアノデュオ作品・二台ピアノ作品のアンサンブルについて(基礎)
基本的な音楽づくり、楽譜の読み方(捉えかた)を学ぶ (林田)

第18回 ピアノデュオ作品・二台ピアノ作品のアンサンブルについて(応用)
音楽的・技術的問題点、それらを解決するための方策を考察する (林田)

第19回 ピアノデュオ作品・二台ピアノ作品のアンサンブル、発表、ディスカッション
より魅力的なデュオを完成させるために (林田)

第20回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等）のピアノパート実践（基礎） ～呼吸、フレーズ感、リズム感、テンポ感を考察する（林田）
第21回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等）のピアノパート実践（応用） ～バランス、音色、タッチ、ペダリング、共演楽器の違い等を考察する（林田）
第22回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等） 弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践（林田）
第23回	ヴァイオリン作品で比較的ピアノパートがシンプルな小品（G線上のアリア、愛の悲しみ等） 弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践、共演者を伴うステージづくりについて、ディスカッション（林田）
第24回	F. Schubert 作曲ピアノとヴァイオリンのためのソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のピアノパート実践（基礎） 初期ロマン派の室内楽作品を考察する（林田）
第25回	F. Schubert 作曲 ピアノとヴァイオリンのためのソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のピアノパート実践（応用） 初期ロマン派の室内楽作品の表現に迫る J. Haydn作曲 ピアノトリオ Hob. X V : 25ピアノトリオのピアノパート実践（基礎） ピアノ、ヴァイオリン、チェロの楽器構成、音楽構築を識る（林田）
第26回	弦楽器奏者を迎えて F. Schubert作曲ヴァイオリンソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のアンサンブル実践（基礎） 共演時の楽しみ、喜び、問題点の確認（林田）
第27回	弦楽器奏者を迎えて F. Schubert作曲ヴァイオリンソナチネ Op.post.137 Nr.1 D384 のアンサンブル実践、ディスカッション（応用） 音楽的なリーダーシップや、アンサンブルの意義に迫る（林田）
第28回	J. Haydn作曲 ピアノトリオ Hob. X V : 25 ピアノトリオのピアノパート実践（応用） 技術的な問題点を音楽的な観点から解決するには（林田）
第29回	弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践(基礎) J. Haydn作曲 ピアノトリオHob. X V : 25 ピアノトリオの音楽的なステージづくりを体験する（林田）
第30回	弦楽器奏者を迎えて アンサンブル実践(応用)、ディスカッション J. Haydn作曲 ピアノトリオHob. X V : 25 アンサンブルの醍醐味を総括する（林田）

履修上の注意

授業を実践的に活用するために事前の練習・研究を十分に行うこと。
他学生の演奏が授業内でどのように変化するかをよく聴き取り、自分自身の演奏に生かすこと。
授業での講義は受講者全員に共通の内容となるので真摯な態度で臨むこと。
新型コロナウイルスの感染状況による内容の変更・調整が生じることがある。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

様々な形態の音楽を数多く聴くこと。日々の暮らしの中で四季を感じ、豊かな表現力や感性を磨くこと。
課題は事前に30分、授業後に30分の学修を行うこと。
各課題の演奏、小テスト、及び成果発表後の講評によりフィードバックを行う。

教科書・参考書

取り上げる課題については授業を進めながら配付あるいは指定していく。指定された楽譜は各自で用意すること。

科目名－クラス名

ピアノ指導法研究

曜日時限

火 1時限

担当教員

林田 枝実

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	3～	通年	4	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	20	0	60	20
									100

教育到達目標と概要

この授業はピアノ指導者に求められる指導力を身につけることを目標とし、主に大人のピアノ学習者へのレッスン方法を中心に研究していく。前期はピアノ指導に必要な基本的指導法、さらには大人向けのピアノ指導教材について研究した後、「大人の初心者に対する模擬レッスン」を指導する側と学習する側の両方の立場から行う。後期には同様に「大人の中・上級者」を対象とした模擬レッスンを行う予定。また、時代のトレンドに添ったオンラインレッスンについても挑戦し、ライブレッスンとの観点・運用の違いを研究する。評価は「模擬レッスン実習(成果発表)」「レポート」等により行う。

学修成果

①指導者として必要な様々な知識とスキル、レッスン(ソロ、ピアノアンサンブル)を円滑に行うための能力を実践的かつ理論的に身につけることができる。②様々な生徒さんに出逢った時に、柔軟な対応や臨機応変な考え方ができる指導者に成長するための発想力を得る。③授業内模擬レッスンと、学生からの質疑や全員での意見交換を通して、コミュニケーション力を向上させることができる。④他者に対して自分の考えを的確に伝えるためのプレゼンテーション力を養うことができる。

授業展開と内容

- 第1回 〈4月5日〉 授業内容の年間オリエンテーション(林田)
- 第2回 〈4月12日〉 指導法スキル①指導者に求められること：コミュニケーションについて(林田)
- 第3回 〈4月19日〉 指導法スキル②ことばの選び方について：レッスンに用いるに相応しい日本語を見直す(林田)
- 第4回 〈4月26日〉 指導法スキル③基礎的ピアノ奏法：椅子への座り方、姿勢、運指（フィンガリング）の考え方、スケール、アルペジオ、カデンツ等の基本練習について(林田)
- 第5回 〈5月10日〉 指導法スキル④レッスン環境について：ピアノ1台でのレッスン、2台でのレッスン、グランドピアノ、アップライトピアノ、電子ピアノ、その活用法について(林田)
- 第6回 〈5月17日〉 バロック作品の指導法①アナリーゼの意義、ハーモニー分析、調性感、テンポ感・リズム感(林田)
- 第7回 〈5月24日〉 バロック作品の指導法②ポリフォニーの表現について、ピアニストに求められるもの(林田)
- 第8回 〈5月31日〉 練習曲の指導法：その意義と実践について、音楽と技術の両立について、様々な時代の練習曲を知る(林田)
- 第9回 〈6月7日〉 古典派作品の指導法①ソナタ形式のアナリーゼについて、形式を知る(林田)
- 第10回 〈6月14日〉 古典派作品の指導法②古典派作品のレッスン実践について←オンラインレッスン実習(林田)
- 第11回 〈6月21日〉 大人の初心者を対象としたピアノ模擬レッスン実習①コミュニケーションの取り方、言葉遣い、マナーについて(林田)
- 第12回 〈6月28日〉 大人の初心者を対象としたピアノ模擬レッスン実習②学習者のニーズを捉える(林田)
- 第13回 〈7月5日〉 大人の初心者を対象としたピアノ模擬レッスン実習③学習者のモチベーションを識る(林田)
- 第14回 〈7月12日〉 オンラインレッスンの検証←オンラインレッスン実習(林田)
- 第15回 〈7月19日〉 前期授業総括（質疑応答、ディスカッション、授業内小テスト）(林田)
- 第16回 〈9月6日〉 後期授業のガイダンス～レッスンノート、レッスンカルテの活用について考える(遠藤)
- 第17回 〈9月13日〉 ロマン派作品の指導法①ロマン派の音楽の本質から考える、指導者は何を伝えるのか(遠藤)
- 第18回 〈9月27日〉 ロマン派作品の指導法②ロマン派作品のレッスン実践について(遠藤)
- 第19回 〈10月4日〉 近現代作品の指導法①近現代作品の特質を学ぶ、指導者は何を伝えるのか(遠藤)
- 第20回 〈10月11日〉 近現代作品の指導法②近現代作品のレッスン実践について(遠藤)
- 第21回 〈10月18日〉 ピアノ指導者に求められる知識：音楽史、楽器の変遷、作曲家について等(遠藤)
- 第22回 〈10月25日〉 ピアノ指導者に求められるメンタルコントロール：未来の指導者像を想定して、指導現場の事象についてのディスカッション(遠藤)
- 第23回 〈11月1日〉 ピアノ指導者に求められる資質：解釈、演奏力、音源の扱い方(遠藤)
- 第24回 〈11月15日〉 大人のためのピアノ指導法①音楽的アプローチと技術的アプローチが演奏力をいかに高めるか、その検証(遠藤)
- 第25回 〈11月22日〉 大人のためのピアノ指導法②コミュニケーションとモチベーション(遠藤)
- 第26回 〈11月29日〉 大人のピアノ模擬レッスン①（前後の回に移動する場合があります。）(遠藤)
- 第27回 〈12月6日〉 大人のピアノ模擬レッスン②（前後の回に移動する場合があります。）(遠藤)
- 第28回 〈12月13日〉 連弾作品の指導法（アンサンブルレッスンの可能性）についての検証(遠藤)
- 第29回 〈1月10日〉 昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室の指導システムを概観する。また、他の音楽教室、音楽団体・組織を概観する(遠藤)

履修上の注意

履修者全員の前で自分の考えを明瞭に発表することと同時に、授業内での学生同士の意見交換が重要であるため、積極的に意見を発言することが望まれる。上記の授業展開の内容については、履修学生の人数に応じて適宜変更されることがあるが、詳細は授業内で指示する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

実習に際しては事前に指導教材について十分に予習(約30分)・研究(約30分)しておくこと。
模擬レッスンの度に全てコメントによるフィードバックをします。また、評価によるフィードバックをします。

教科書・参考書

特定の教科書は用いない。指導教材については授業内で指示する。

科目名－クラス名

音楽教育メソッド実践Ⅱ

曜日時限

火 4時限

担当教員

林田 枝実

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
				評価割合	0	0	0	50	50
									100

教育到達目標と概要

音楽の3要素はリズム、メロディー、ハーモニーであるが、さらに根源を辿れば、音、言葉、身体つながりによる総合的なものである。しかし音楽は断片的になり特殊化されがちで、器楽においては特に「音」のみに捉われがちである。

本授業ではエミール・ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ等が20世紀に編み出した音楽教育メソッドを中心に、昨今多くの需要がある様々なメソッドの理念・概容・方法論等を学修する。講義に加えて実際に専門的なメソッドを体験、実践する。各メソッドの内容に沿った専門の講師を招いて、より深い理解を目指し、幅広く実践を行う。

学修を通して音楽的な視野を広げ、総合的に音楽を捉え、個々に独自のメソッドをプランニングすることを最終的な目標とする。

学修成果

様々な音楽教育メソッドを知る。それらを実践することにより、自分自身の総合的な音楽能力を高める。更には将来指導者としてより良い音楽教育を行うための考え方を構築し、心身の基盤を作っていくことができる。

授業展開と内容

- 第1回 〈4月5日〉ガイダンス：授業の概要と注意点の説明（林田）[A214]
- 第2回 〈4月12日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育①（平島美保）[C602]
リズム：様々な動きと動くために必要な空間への意識、音価(休符)
ソルフェージュ：ダルクローズスケール(長調)、主音で終わるメロディ即興
- 第3回 〈4月19日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育②（平島美保）[C602]
リズム：変拍子
ソルフェージュ：和音(長3・短3・減3・増3)
- 第4回 〈4月26日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育③（平島美保）[C602]
リズム：アナクルーシス/クルーシス/メタクルーシス
ソルフェージュ：「ド」からの3音列
- 第5回 〈5月10日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育④（平島美保）[C602]
リズム：拍と分割形のニュアンス
ソルフェージュ：音程
- 第6回 〈5月17日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育⑤（平島美保）[C602]
リズム：不等拍
ソルフェージュ：ダルクローズスケール（短調）
- 第7回 〈5月24日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育⑥（平島美保）[C602]
リズム：メトリックトランスフォーメーション
ソルフェージュ：教会旋法
- 第8回 〈5月31日〉C. オルフの教育①（細田淳子）[C602]
C.オルフの「音と動きの教育」理念と特徴 基本理念「エレメンタル」について
- 第9回 〈6月7日〉C. オルフの教育②（細田淳子）[C602]
音をイメージして描く、描かれたもののイメージを音にする
- 第10回 〈6月14日〉C. オルフの教育③（細田淳子）[C602]
ペントニックによる即興、拍子のある音楽と無い音楽
- 第11回 〈6月21日〉→7/9の集中補講日Ⅲ限に実施予定
昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室の幼児音楽教育システムについて①(岸本めぐみ)[C102]
「音楽による対話」を楽しむ～親と子のおとあそび 2歳・3歳クラス
- 第12回 〈6月28日〉昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室の幼児音楽教育システムについて②(岸本めぐみ) [C602]
「音楽による対話」を楽しむ～音楽のアトリエ A・Bクラス
- 第13回 〈7月5日〉昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室の幼児音楽教育システムについて③(岸本めぐみ) [C602]
「音楽による対話」を楽しむ～音楽のアトリエ Cクラス
- 第14回 〈7月12日〉さまざまな音楽教育メソッド～海外でも注目される日本独自の幼児音楽教育文化①（尾崎進亮）[場所未定]
「即興演奏力や創作力を育てる指導法について」
- 第15回 〈7月19日〉総括（授業内小テスト）（林田）[A214]
- 第16回 〈9月6日〉ガイダンス（林田）[A214]

第17回	〈9月13日〉子どものためのソルフェージュ教育実践①(林田) [A214] 音楽の上達はソルフェージュから
第18回	〈9月27日〉子どものためのソルフェージュ教育実践②(林田) [A214] 和音と親しむ、和音と遊ぶ
第19回	〈10月4日〉～海外でも注目される日本独自の幼児音楽教育文化②-1(諸井野ぞ美) [A214] 「作る」ことを積極的に取り入れた音楽教育(即興演奏の楽しみ)
第20回	〈10月11日〉～海外でも注目される日本独自の幼児音楽教育文化③-2(諸井野ぞ美) [A214] 即興演奏の楽しみ
第21回	〈10月18日〉様々なフィジカルトレーニング～ピアニストのためのフィンガートレーニング①基本編(本村久子) [A214]
第22回	〈10月25日〉様々なフィジカルトレーニング～ピアニストのためのフィンガートレーニング②実践編(本村久子) [A214]
第23回	〈11月1日〉様々なフィジカルトレーニング～ピアニストのためのフィンガートレーニング③応用編、子どものためのトレーニング(本村久子) [A214]
第24回	〈11月15日〉民族音楽と音楽教育メソッド(林田) [A214] バルトーク「子どものために」における指導法 言葉、アクセント、リズム、おどり
第25回	〈11月22日〉民族音楽とメソッド(林田) [A214] バルトーク「子どものために」「マイクロコスモス」における指導実践 対位法、ソルフェージュ
第26回	〈11月29日〉→→1/7の授業調整日Ⅱ限に実施予定 様々なフィジカルトレーニング～音楽家の体幹①(岩部純子) [C602] 自分のからだを知る
第27回	〈12月6日〉→→1/13の休講日Ⅱ限に実施予定 様々なフィジカルトレーニング～音楽家の体幹②(岩部純子) [C602] ピアニストのからだ、ステージ上での動き
第28回	〈12月13日〉国内外の様々なメソッド その概念・実践を概観する(林田) [A214] 鈴木メソッド、三善メソッド、絶対音感教育、エルシシステム、モンテソーリ等
第29回	〈1月10日〉独自メソッドの立案(林田) [A214]
第30回	〈1月17日〉独自メソッドによるプレゼンテーション(成果発表)(林田) [A214]

履修上の注意

ノートを持参すること。配付されたプリントはファイルすること。

リトミック、オルフおよび体幹については：裸足、もしくは底の薄いバレエシューズ等を推奨。スカートやジーンズは避けてください。筆記用具、五線のノートを持参すること。

教室は授業内容中にも記載してあるが、変更になる場合があるので、事前に必ず確認すること。

なお、感染対策の観点から、授業内容を変更する場合があります。詳細は授業内でお知らせします。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

各自復習を繰り返すことで学修内容の習熟に努めるとともに、授業に向けて必要な準備をすること(60分)。

前期は授業内小テストにて、また、後期は独自メソッドに関する課題提出及びプレゼンテーションについてフィードバックします。

教科書・参考書

適宜指示する。またはプリントを配付する。

科目名－クラス名

音楽教育メソッド実践Ⅱ

曜日時限

火 4時限

担当教員

林田 枝実

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	50	100
				0	0	0	50	50	

教育到達目標と概要

音楽の3要素はリズム、メロディー、ハーモニーであるが、さらに根源を辿れば、音、言葉、身体つながりによる総合的なものである。しかし音楽は断片的になり特殊化されがちで、器楽においては特に「音」のみに捉われがちである。

本授業ではエミール・ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ等が20世紀に編み出した音楽教育メソッドを中心に、昨今多くの需要がある様々なメソッドの理念・概念・方法論等を学修する。講義に加えて実際に専門的なメソッドを体験、実践する。各メソッドの内容に沿った専門の講師を招いて、より深い理解を目

学修成果

様々な音楽教育メソッドを知る。それらを実践することにより、自分自身の総合的な音楽能力を高める。更には将来指導者としてより良い音楽教育を行うための考え方を構築し、心身の基盤を作っていくことができる。

授業展開と内容

- 第1回 〈4月5日〉ガイダンス：授業の概要と注意点の説明（林田）[A214]
- 第2回 〈4月12日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育①（平島美保）[C602]
リズム：様々な動きと動くために必要な空間への意識、音価(休符)
ソルフェージュ：ダルクローズスケール(長調)、主音で終わるメロディ即興
- 第3回 〈4月19日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育②（平島美保）[C602]
リズム：変拍子
ソルフェージュ：和音(長3・短3・減3・増3)
- 第4回 〈4月26日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育③（平島美保）[C602]
リズム：アナクルーシス/クルーシス/メタクルーシス
ソルフェージュ：「ド」からの3音列
- 第5回 〈5月10日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育④（平島美保）[C602]
リズム：拍と分割形のニュアンス
ソルフェージュ：音程
- 第6回 〈5月17日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育⑤（平島美保）[C602]
リズム：不等拍
ソルフェージュ：ダルクローズスケール（短調）
- 第7回 〈5月24日〉E. ジャック＝ダルクローズの教育⑥（平島美保）[C602]
リズム：メトリックトランスフォーメーション
ソルフェージュ：教会旋法
- 第8回 〈5月31日〉C. オルフの教育①（細田淳子）[C602]
C.オルフの「音と動きの教育」理念と特徴 基本理念「エレメンタル」について
- 第9回 〈6月7日〉C. オルフの教育②（細田淳子）[C602]
音をイメージして描く、描かれたもののイメージを音にする
- 第10回 〈6月14日〉C. オルフの教育③（細田淳子）[C602]
ペントニックによる即興、拍子のある音楽と無い音楽
- 第11回 〈6月21日〉→7/9の集中補講日Ⅲ限に実施予定
昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室の幼児音楽教育システムについて①(岸本めぐみ)[C102]
「音楽による対話」を楽しむ～親と子のおとあそび 2歳・3歳クラス
- 第12回 〈6月28日〉昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室の幼児音楽教育システムについて②(岸本めぐみ) [C602]
「音楽による対話」を楽しむ～音楽のアトリエ A・Bクラス
- 第13回 〈7月5日〉昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室の幼児音楽教育システムについて③(岸本めぐみ) [C602]
「音楽による対話」を楽しむ～音楽のアトリエ Cクラス
- 第14回 〈7月12日〉さまざまな音楽教育メソッド～海外でも注目される日本独自の幼児音楽教育文化①（尾崎進亮）[場所未定]
「即興演奏力や創作力を育てる指導法について」
- 第15回 〈7月19日〉総括（授業内小テスト）（林田）[A214]
- 第16回 〈9月6日〉ガイダンス（林田）[A214]
- 第17回 〈9月13日〉子どものためのソルフェージュ教育実践①（林田）[A214]
音楽の上達はソルフェージュから

第18回	〈9月27日〉子どものためのソルフェージュ教育実践②(林田) [A214] 和音と親しむ、和音と遊ぶ
第19回	〈10月4日〉～海外でも注目される日本独自の幼児音楽教育文化②-1(諸井野ぞ美) [A214] 「作る」ことを積極的に取り入れた音楽教育(即興演奏の楽しみ)
第20回	〈10月11日〉～海外でも注目される日本独自の幼児音楽教育文化③-2(諸井野ぞ美) [A214] 即興演奏の楽しみ
第21回	〈10月18日〉様々なフィジカルトレーニング～ピアニストのためのフィンガートレーニング①基本編(本村久子) [A214]
第22回	〈10月25日〉様々なフィジカルトレーニング～ピアニストのためのフィンガートレーニング②実践編(本村久子) [A214]
第23回	〈11月1日〉様々なフィジカルトレーニング～ピアニストのためのフィンガートレーニング③応用編、子どものためのトレーニング(本村久子) [A214]
第24回	〈11月15日〉民族音楽と音楽教育メソッド(林田) [A214] バルトーク「子どものために」における指導法 言葉、アクセント、リズム、おどり
第25回	〈11月22日〉民族音楽とメソッド(林田) [A214] バルトーク「子どものために」「マイクロコスモス」における指導実践 対位法、ソルフェージュ
第26回	〈11月29日〉→→1/7の授業調整日Ⅱ限に実施予定 様々なフィジカルトレーニング～音楽家の体幹①(岩部純子) [C602] 自分のからだを知る
第27回	〈12月6日〉→→1/13の休講日Ⅱ限に実施予定 様々なフィジカルトレーニング～音楽家の体幹②(岩部純子) [C602] ピアニストのからだ、ステージ上での動き
第28回	〈12月13日〉国内外の様々なメソッド その概念・実践を概観する(林田) [A214] 鈴木メソッド、三善メソッド、絶対音感教育、エルシシステム、モンテソーリ等
第29回	〈1月10日〉独自メソッドの立案(林田) [A214]
第30回	〈1月17日〉独自メソッドによるプレゼンテーション(成果発表)(林田) [A214]

履修上の注意

ノートを持参すること。配付されたプリントはファイルすること。
 リトミック、オルフおよび体幹については：裸足、もしくは底の薄いバレエシューズ等を推奨。スカートやジーンズは避けてください。筆記用具、五線のノートを持参すること。
 教室は授業内容中にも記載してあるが、変更になる場合があるので、事前に必ず確認すること。
 なお、感染対策の観点から、授業内容を変更する場合があります。詳細は授業内でお知らせします。

授業外学修の指示/課題に対するフィードバックの方法

各自復習を繰り返すことで学修内容の習熟に努めるとともに、授業に向けて必要な準備をすること(60分)。
 前期は授業内小テストにて、また、後期は独自メソッドに関する課題提出及びプレゼンテーションについてフィードバックします。

教科書・参考書

適宜指示する。またはプリントを配付する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	1年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	1年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「コンサート」等で演奏する作品の特徴について
第17回	「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「コンサート」等で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	近現代のピアノ作品の演奏法
第21回	卒業実技試験のための選曲
第22回	卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第23回	卒業実技試験曲の楽曲分析について
第24回	演奏解釈の多様性について
第25回	演奏技術の訓練方法について
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	卒業実技試験曲の技術的問題点について
第28回	卒業実技試験曲の音楽表現法について
第29回	卒業実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16回目から20回目までの授業について、音楽的な表現を中心にレッスンを進める。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	1年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	4	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修しない学生は、後期の16回目から19回目までは、音楽的な表現を中心にレッスンを進める。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要の技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

- 第1回 1年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
- 第2回 技術の問題点について
- 第3回 音楽的表現方法について
- 第4回 バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
- 第5回 バロック作品の楽曲分析について
- 第6回 バロック鍵盤作品の演奏について
- 第7回 ロマン派のピアノ作品について
- 第8回 近現代のピアノ作品の特徴について
- 第9回 前期実技試験のための選曲
- 第10回 前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第11回 前期実技試験曲の楽曲分析について
- 第12回 前期実技試験曲の技術的問題点について
- 第13回 前期実技試験曲の音楽的表現法について
- 第14回 前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
- 第15回 前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
- 第16回 「コンサート」等で演奏する作品の特徴について
- 第17回 「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について
- 第18回 「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について
- 第19回 「コンサート」等で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
- 第20回 近現代のピアノ作品の演奏法
- 第21回 卒業実技試験のための選曲
- 第22回 卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第23回 卒業実技試験曲の楽曲分析について
- 第24回 演奏解釈の多様性について
- 第25回 演奏技術の訓練方法について
- 第26回 暗譜のための訓練方法について
- 第27回 卒業実技試験曲の技術的問題点について
- 第28回 卒業実技試験曲の音楽表現法について
- 第29回 卒業実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

- 第1回 1年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
- 第2回 技術の問題について
- 第3回 音楽的表現方法について
- 第4回 バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
- 第5回 バロック作品の楽曲分析について
- 第6回 バロック鍵盤作品の演奏について
- 第7回 ロマン派のピアノ作品について
- 第8回 近現代のピアノ作品の特徴について
- 第9回 前期実技試験のための選曲
- 第10回 前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第11回 前期実技試験曲の楽曲分析について
- 第12回 前期実技試験曲の技術的問題点について
- 第13回 前期実技試験曲の音楽的表現法について
- 第14回 前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
- 第15回 前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
- 第16回 「コンサート」等で演奏する作品の特徴について
- 第17回 「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について
- 第18回 「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について
- 第19回 「コンサート」等で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
- 第20回 近現代のピアノ作品の演奏法
- 第21回 卒業実技試験のための選曲
- 第22回 卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第23回 卒業実技試験曲の楽曲分析について
- 第24回 演奏解釈の多様性について
- 第25回 演奏技術の訓練方法について
- 第26回 暗譜のための訓練方法について
- 第27回 卒業実技試験曲の技術的問題点について
- 第28回 卒業実技試験曲の音楽表現法について
- 第29回 卒業実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
- 第30回 卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1?3年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、後期実技試験(卒業演奏)に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。④卒業後のキャリア形成に繋がる学修の総括となる。

授業展開と内容

第1回 3年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回 技術の問題について

第3回 音楽的表現方法について

第4回 バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について

第5回 バロック作品の楽曲分析について

第6回 バロック鍵盤作品の演奏について

第7回 ロマン派のピアノ作品について

第8回 近現代のピアノ作品の特徴について

第9回 前期実技試験のための選曲

第10回 前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第11回 前期実技試験曲の楽曲分析について

第12回 前期実技試験曲の技術的問題点について

第13回 前期実技試験曲の音楽的表現法について

第14回 前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について

第15回 前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について

第16回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について

第17回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について

第18回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について

第19回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について

第20回 「音楽教養コースコンサート」の成果について

第21回 バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題

第22回 バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現

第23回 バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈

第24回 後期実技試験曲の選曲について

第25回 後期実技試験の選曲決定

第26回 暗譜のための訓練方法について

第27回 後期実技試験曲(卒業試験)の技術的問題点について

第28回 後期実技試験曲(卒業試験)の音楽表現法について

第29回 後期実技試験曲(卒業試験)の演奏レベルを向上させる方法について

第30回 後期実技試験曲(卒業試験)通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究や分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1～3年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、後期実技試験(卒業演奏)に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。④卒業後のキャリア形成に繋がる学修の総括となる。

授業展開と内容

第1回 3年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回 技術の問題点について

第3回 音楽的表現方法について

第4回 バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について

第5回 バロック作品の楽曲分析について

第6回 バロック鍵盤作品の演奏について

第7回 ロマン派のピアノ作品について

第8回 近現代のピアノ作品の特徴について

第9回 前期実技試験のための選曲

第10回 前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第11回 前期実技試験曲の楽曲分析について

第12回 前期実技試験曲の技術的問題点について

第13回 前期実技試験曲の音楽的表現法について

第14回 前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について

第15回 前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について

第16回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について

第17回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について

第18回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について

第19回 「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について

第20回 「音楽教養コースコンサート」の成果について

第21回 バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題

第22回 バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現

第23回 バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈

第24回 後期実技試験曲の選曲について

第25回 後期実技試験の選曲決定

第26回 暗譜のための訓練方法について

第27回 後期実技試験曲(卒業試験)の技術的問題点について

第28回 後期実技試験曲(卒業試験)の音楽表現法について

第29回 後期実技試験曲(卒業試験)の演奏レベルを向上させる方法について

第30回 後期実技試験曲(卒業試験)通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究や分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識
第3回	指の強化トレーニング方法
第4回	敏捷性トレーニング方法
第5回	エチュード作品奏法
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（原典版・校訂版、関連文献・資料について学修する）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科ピアノコースの週1回60分主科実技科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。具体的には、1年次では基礎的演奏技術を習得、2年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	様々なテクニック修得に基づく基礎知識
第3回	エチュード試験に向けて（作品内容を理解する）
第4回	エチュード試験に向けて（指の強化トレーニング方法）
第5回	エチュード試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第6回	エチュード試験に向けて（音楽表現を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを修得する）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探るとともに、演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得し、自己の演奏を検証する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分練習をし準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識
第3回	指の強化トレーニング方法
第4回	敏捷性トレーニング方法
第5回	エチュード作品奏法
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（原典版・校訂版、関連文献・資料について学修する）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科ピアノコースの週1回60分主科実技科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。具体的には、1年次では基礎的演奏技術を習得、2年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第2回 様々なテクニック修得に基づく基礎知識
- 第3回 エチュード試験に向けて（作品内容を理解する）
- 第4回 エチュード試験に向けて（指の強化トレーニング方法）
- 第5回 エチュード試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
- 第6回 エチュード試験に向けて（音楽表現を学ぶ）
- 第7回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第8回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、楽曲内容を理解する）
- 第9回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを学ぶ）
- 第10回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを修得する）
- 第11回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第12回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探るとともに、演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第14回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 スケールの奏法について
- 第17回 音楽的表現に沿った脱力奏法について
- 第18回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
- 第19回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第22回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
- 第25回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第27回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第29回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得し、自己の演奏を検証する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分練習をし準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科ピアノコースの週1回60分主科実技科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。具体的には、1年次では基礎的演奏技術を習得、2年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第2回 様々なテクニック修得に基づく基礎知識
- 第3回 エチュード試験に向けて（作品内容を理解する）
- 第4回 エチュード試験に向けて（指の強化トレーニング方法）
- 第5回 エチュード試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
- 第6回 エチュード試験に向けて（音楽表現を学ぶ）
- 第7回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第8回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、楽曲内容を理解する）
- 第9回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを学ぶ）
- 第10回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを修得する）
- 第11回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第12回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探るとともに、演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第14回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 スケールの奏法について
- 第17回 音楽的表現に沿った脱力奏法について
- 第18回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
- 第19回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第22回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
- 第25回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第27回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第29回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得し、自己の演奏を検証する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分練習をし準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する。

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表					
実技・実習	1～	通年	9	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	9	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

博士特別表現研究②

ヴァイオリン

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、声楽の分野の実践的研究を行う。実技のレッスンを主体としつつ、それに関連する歌唱法研究等を行う。年度末には当年度を総括する研究演奏による研究発表を行い、評価を受ける。

学修成果

修士課程までの研鑽の成果や個人の能力・資質に基づいて、きわめて高度な演奏技術の習得と向上を図ることができる。

授業展開と内容

- 第1回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (1) 1年間の計画の立案、研究対象楽曲の決定
- 第2回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (2) 研究対象楽曲①に関する声楽の見地からの考察
- 第3回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (3) 研究対象楽曲①に関する発声の問題点を上げる
- 第4回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (4) 研究対象楽曲①に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第5回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (5) 研究対象楽曲①に関する演奏解釈
- 第6回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (6) 研究対象楽曲①に関する演奏法研究
- 第7回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (7) 研究対象楽曲①に関する全体の曲分析
- 第8回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (8) 研究対象楽曲①に関する全体の演奏法
- 第9回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (9) 研究対象楽曲②に関する声楽の見地からの考察
- 第10回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (10) 研究対象楽曲②に関する発声の問題点を上げる
- 第11回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (11) 研究対象楽曲②に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第12回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (12) 研究対象楽曲②に関する演奏解釈
- 第13回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (13) 研究対象楽曲②に関する演奏法研究
- 第14回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (14) 研究対象楽曲②に関する全体の曲分析
- 第15回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (15) 研究対象楽曲②に関する全体の演奏法
- 第16回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (16) 研究対象楽曲③に関する発声を中心に取り上げる
- 第17回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (17) 研究対象楽曲③に関する声楽の見地からの考察
- 第18回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (18) 研究対象楽曲③に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第19回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (19) 研究対象楽曲③に関する演奏解釈
- 第20回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (20) 研究対象楽曲③に関する演奏研究
- 第21回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (21) 研究対象楽曲③に関する全体の曲分析
- 第22回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (22) 研究対象楽曲③に関する全体の演奏法
- 第23回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (23) 研究対象楽曲④に関する声楽の見地からの考察
- 第24回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (24) 研究対象楽曲④に関する発声の問題点を上げる
- 第25回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (25) 研究対象楽曲④に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第26回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (26) 研究対象楽曲④に関する演奏解釈
- 第27回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (27) 研究対象楽曲④に関する演奏法研究
- 第28回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (28) 研究対象楽曲④に関する全体の曲分析
- 第29回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (29) 研究対象楽曲④に関する全体の演奏法
- 第30回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (30) 年次研究演奏発表に向けての仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。単に技術の向上のみならず、多角的な作品の追及を目指すという意識を持って履修すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業外の時間で個人練習の時間を確保し、十分な研究をしてレッスンに臨むこと。

教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

博士特別表現研究②

作曲

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	通年	2		0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

2年次に開講する。「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、作曲及び関連分野の実践的研究を行う。年度末には当年度を総括する研究作品提出を行い、評価を受ける。

学修成果

①の成果に基づいて、より一層高度な技術の修得と、それに裏打ちされた創作の深化を図ることができる。

授業展開と内容

第1回	作曲構想の研究①導入
第2回	作曲構想の研究②実践
第3回	作曲構想の研究③まとめ
第4回	作曲構想に関わる資料の研究①導入
第5回	作曲構想に関わる資料の研究②実践とまとめ
第6回	作曲構想の原案の作成準備
第7回	作曲構想の原案の作成①導入
第8回	作曲構想の原案の作成②実践
第9回	楽器編成等の設定（オーケストラ、声楽等）
第10回	音楽形式、音素材の設定
第11回	作曲の実践①導入
第12回	作曲の実践②構想に基づいたスケッチ
第13回	作曲の実践③楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第14回	作曲の実践④スコア浄書またはメディア作成
第15回	まとめ
第16回	作曲構想の再検討
第17回	作曲構想の原案の修正
第18回	作曲した部分の再検討
第19回	作曲した部分の修正
第20回	再検討に基づく作曲の実践①導入
第21回	再検討に基づく作曲の実践②構想の検討
第22回	再検討に基づく作曲の実践③原案の修正
第23回	再検討に基づく作曲の実践④構想に基づいたスケッチ
第24回	再検討に基づく作曲の実践⑤スケッチの改善
第25回	再検討に基づく作曲の実践⑥楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第26回	再検討に基づく作曲の実践⑦アレンジの改善
第27回	再検討に基づく作曲の実践⑧スコア浄書またはメディア作成の導入
第28回	作品の楽譜等の作成
第29回	作品解説の作成
第30回	まとめと年次研究作品提出に向けての仕上げ

履修上の注意

毎回のレッスン以外でも常に担当教員と連絡をとり、研究の進捗状況を報告すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンで指導された内容を研究し、作曲に生かし、実践に励むこと。

■ 教科書・参考書

作曲の構想に関わる資料としてレッスン時に指示する。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：570 教員名：林田 枝実

1) 評価結果に対する所見

アンケート結果については、概ね例年通りの評価が得られたと認識しているが、特にクラス授業についての回答数の少なさが懸念される。回答を得られるところまでが評価と解釈すると、全容が見えないことは遺憾である。

この中で、多くの外部講師・特別講師を招聘している実践科目「音楽教育メソッド実践Ⅱ」の自由記述から、講師の一言の学生に対する影響力を伺い知ることが出来た。ただ、講師が、大きな話の流れの中でこれらの言葉に及んだのは確かであり、指摘の主語は履修者達ではない。また、「ピアノアンサンブルⅡ②等」については、1限開講であったことから、担当した後期は特に出席率が芳しくなかった。これが回答率の低さにつながっていると思われる。一方、実技レッスンについては、年々学生個々の特性、バックグラウンドが多様化している。レッスンを通じ、いかに一人一人がスムーズに自宅学修(予習・復習)に移行できるかが問われている。

2) 要望への対応・改善方策

前述のように、外部講師・特別講師を招聘する授業では常にフォローし、履修学生の受容の仕方を注視、補正していきたい。複数担当の授業でもより緊密な情報共有を心がけたい。

また、アンケート回答率の著しく低かった「ピアノアンサンブルⅡ②等」は、授業内容に対して履修学生が多いので、2023年度より半数程度の履修者で運用できるよう改善を行ない、担当講師も変更したので、学生と教員との距離感が近づくことを期待したい。

その他、散見される学生の評価のばらつきに対しては、より積極的にコミュニケーションをとることが最善策の一つであろう。クラス授業内ではこまめに意見交換を重ね、随時プレゼンテーションの場面を組み込みたい。個人レッスンでは、個々の特性を尊重し、本学を選んできた学生一人一人の目標・状況に、真摯に向き合っていきたい。

3) 今後の課題

2022年度は前年度より一歩進んで、マスク着用や消毒以外は実践を含む全ての授業で、ほぼコロナ以前の運用に戻った。しかし、コロナ以前と大きく異なるのがクラス授業の印象である。常に私語が絶えなかった学生は影をひそめ、スマホを片手に静まり返った学生が着席している光景から授業がスタートするのは、ある意味で衝撃的である。学生の言動の多くがSNS上に移行していることを象徴している。このような時代にこそ、実際の声、音を交わすことの意義をいかに無理なく伝えることができるか、これが課題である。

また、デジタルツールを使いこなす学生だからこそ、アンケートに応えるまでが一つの授業であるというサイクルが理想的であると思われる。これも学生の授業に対する主体的な取り組みの一端であると捉えて、より学生の目線を読み取って行きたい。

以上